

埼玉トヨペット 2019 RACE REPORT

Green Brave

【#68 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX】

2019年7月20日(土)~7月21日(日)
 ビレリスーパー耐久シリーズ2019 第4戦
 TKUスーパー耐久レース in オートポリス



決勝結果 (ST-3 クラス)

#68 埼玉トヨペット Green Brave
 GR SPORT マークX

(服部尚貴 / 脇阪薫一 / 吉田広樹)

決勝：2位

(119周、4時間41分54秒625)

予選：3位

(合算タイム4分04秒320、18番グリッド)

■ ■ ■ ■ ■ 難しいコンディションのレースで殊勲の2位フィニッシュ ■ ■ ■ ■ ■

レース時間は5時間。台風の影響により、天候が心配される中、A、B両ドライバーの予選はドライで行われた(Cドライバーはウエット)。コースアウトするクルマがあり、服部選手はタイミングを慎重に見極めてのアタックとなったが、1回目に2分02秒129をマーク。#14 フェアレディZに続く2位につける。インターバルの時間を利用して、足まわりのセッティングを変更。脇阪選手がコースに入る。脇阪選手はピットやスポッターの平沼から送られてくる情報をもとにアタックを開始し、2分02秒191をマーク。フェアレディZ勢に次ぐ3位につけ、合算タイム4分04秒320で予選3位となった。吉田選手はウエットでクルマの感触を確認しながら走行し、2分11秒972(2位)。

決勝のドライバー交代義務は3回。スタート時こそ天候は曇りだったが、雨は降ったり止んだりを繰り返し、先が読めない中でのレースとなった。スタートドライバーは吉田選手で、レインタイヤを選択。序盤は予選順位と同じ3位をキープするも、RC350勢のペースが速く、9周目に#62 RC350に抜かれて4位に。さらに路面はどんどん乾き始め、15周目にピットイン。脇阪選手に交代し、給油とタイヤ交換(ドライ)を行い、4位でコースに復帰する。ライバルのピットインにより、16周目に2位へ。その後、雨が降り出すが、タイヤ交換が必要になるほどの雨量ではなく、脇阪選手がロング走行を続ける。57周目にトップの#62 RC350が2回目のピットイン。脇阪選手はトップに浮上するが、60周目に吉田選手に交代し、給油のみでコースに復帰する。吉田選手の順位は3位で、フェアレディZ勢はスピンやトラブルで遅れている。実質的なトップ争いはマークXと#34 RC350と#62 RC350の3台に絞られた。

3回目のFCY(フルコースイエロー)時に#34 RC350がピットに入り、#62 RC350がトップへ。3位の吉田選手はライバルと遜色ないペースで走行するも、上位2台との差はなかなか縮まらない。しかし、残り約1時間半で降り出した雨により、レースは大きく動き出す。#62 RC350はすでに3回目のピットインを終え、ドライタイヤで走行中。マークXは1回のピットインを残しているため、ポジションアップの可能性が高まる。吉田選手は106周目にピットイン。服部選手に交代し、給油とレインタイヤに交換し、3位でコースに復帰する。108周目に#34 RC350が3回目、ほぼ同じタイミングで#62 RC350が4回目のピットインを行い、服部選手は2位に順位を上げる。トップは#34 RC350で、109周終了時点でのマークXとの差は約42秒。雨は本降りとなっており、展開次第では逆転可能な差だ。残り約1時間で4回目のFCYが導入され、すぐにセーフティカー(SC)による先導へと切り替わる。#34 RC350とマークXの間には16台のクルマが走行しており、早期のリスタートが待たれる状況。しかし、濃い霧がコース上を覆っており、残り約15分で無念の赤旗。119周でレースは終了となった。今回の結果により、埼玉トヨペット Green Braveは#34 RC350に続く、ランキング2位に浮上。残り2戦で12.5ポイント差を追う展開となった。

NEXT RACE ⇒ 第5戦 9月14日(土)~15日(日) ツインリンクもてぎ(栃木県茂木町)

DRIVERS VOICE



2位は残念ですが、攻めた結果なので、良かったと思います。他のチームがトラブルで落としている中、2位のポイントをフルでもらえたのは良かったです。今回勝ったチームとの差は広がりますが、残り2戦で挽回できと思っています。悔しい反面、思い切りやりきれたレースだと思っています。(脇阪薫一選手)

判断は良かったのですが、ハイドロブレーニングをくらい、大変でした。自分が飛ぶ前に他のクルマが飛んでくれたから助かりました。雨は小降りになったのですが、今度は霧が出てきてしまい、最終コーナーは霧でまったく見えないぐらいでした。レース再開はないかなと思っていました。(服部尚貴選手)

天候がころころ変わるので、自分たちが最初に決めていた作戦通りには交代できませんでした。天候に合わせた作戦となり、結果、自分が長時間乗ることになりました。スリックで濡れていたたり、レインで乾いてきたりと、誰が乗っていても常に難しい状況でした。最低限、2位になって良かったです。(吉田広樹選手)

MECHANIC VOICE

レースに参加したのは 86/BRZ レース以来です。86/BRZ レースの時は1人で1台を担当していましたが、今回は1台を何人かで作業するので、もっと追求して作業するような感じです。タイヤ管理も重要な作業なので、ミスがないように慎重にやりました。チームから指示が来て、すぐにタイヤを用意するのですが、勉強になります。お客様にアドバイスできるのはレースを通じて学んできたからだと思います。
(レクサス熊谷南・坂田優樹)



ST-3 クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	TECHNO FIRST RC350(レクサス RC350)	119 周
2位	埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マーク X(トヨタ マーク X)	119 周
3位	DENSO Le Beausset RC350(レクサス RC350)	118 周
4位	5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY(レクサス RC350)	116 周
5位	HIRIX☆YAIMA☆Z34(ニッサン フェアレディ Z)	110 周
6位	TRACY SPORTS IS350(レクサス IS350)	108 周

天候:曇りのち雨 路面:ドライウエット ※トップ6まで(出走7台)

ST-3 クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	34	TECHNO FIRST	95
2位	68	埼玉トヨペット Green Brave	83.5
3位	38	TRACY SPORTS	72.5
4位	39	TRACY SPORTS	72
5位	62	Le Beausset Motorsports	61
6位	14	OKABEJIDOSHA motorsport	57

※6位まで(7台中)

埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



赤城車体工業株式会社



株式会社アシスト・ワン



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼群スリーボンド株式会社



埼玉トヨペット陸送株式会社



株式会社テレビ埼玉



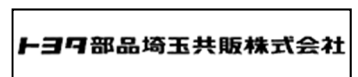
株式会社デンソーセールス



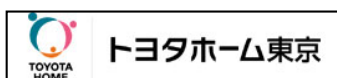
株式会社トイファクトリー
インターナショナル



株式会社トヨタカスタマイジング
& ディベロップメント



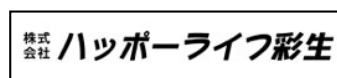
トヨタ部品埼玉共販株式会社



トヨタホーム東京株式会社



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッピーライフ彩生



富士ゼロックス埼玉株式会社



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社

※50 音順